

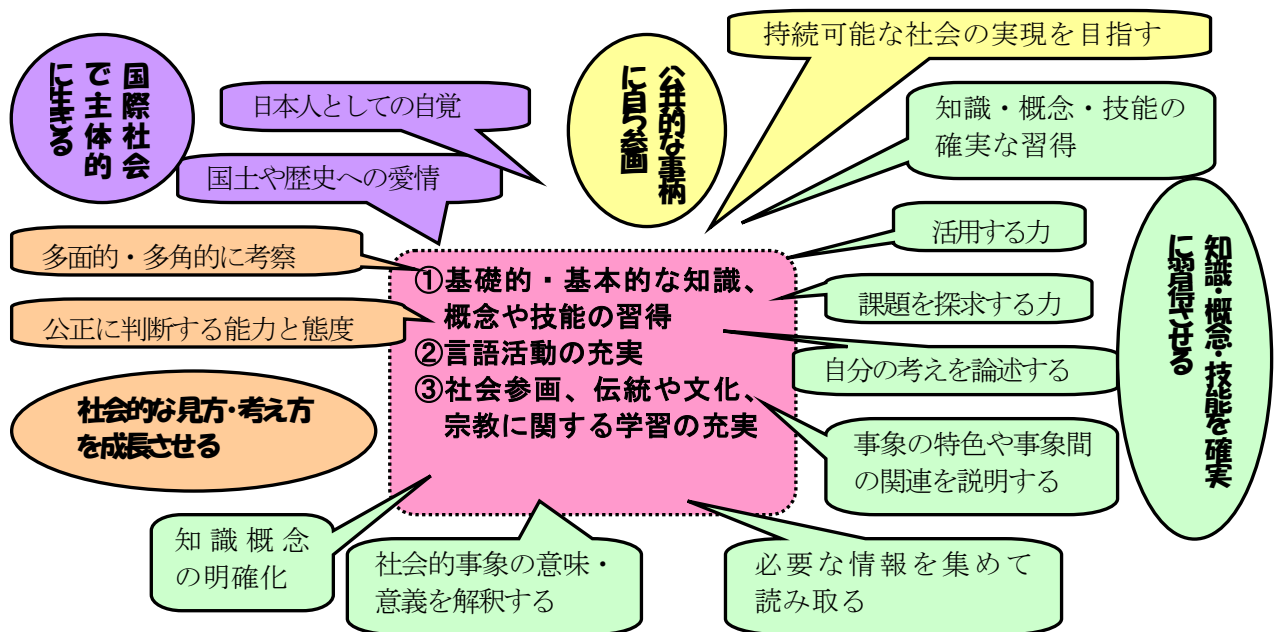
中学校社会研究部

I 研究主題

社会的事象を多面的・多角的に考察し、主体的に社会に関わる生徒の育成
—社会的な見方・考え方を育てる授業づくりについて—

II 主題設定の理由

「生きる力」をはぐくむという理念のもと、平成24年度から中学校において新学習指導要領が全面实施される。社会科における改訂のポイントは、以下の様に示される。



現代社会において、一つ一つの社会的事象は、国内はもとより、各国の社会的事象と密接に関連し、相互に連動しているため、それ自体を単独の社会的事象として切り離して捉えることは難しい。国際化・情報化の進む変化の激しい今日においては、個々の視点だけでなく、社会的な視点やグローバルな視点に立って物事をとらえていくことが求められている。

こうした力を育むためには、生徒たちが地理、歴史、公民の学習を通して習得した基礎的・基本的な知識を活用しながら、社会的事象のもっている意味、意義を解釈する学習、事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して（多面的・多角的に考察する）、主体的に社会の正しい在り方を選択することができる力を育てていくことが大切である。それこそが、生徒の「社会的な見方・考え方」を育てることになると考え本主題を設定した。

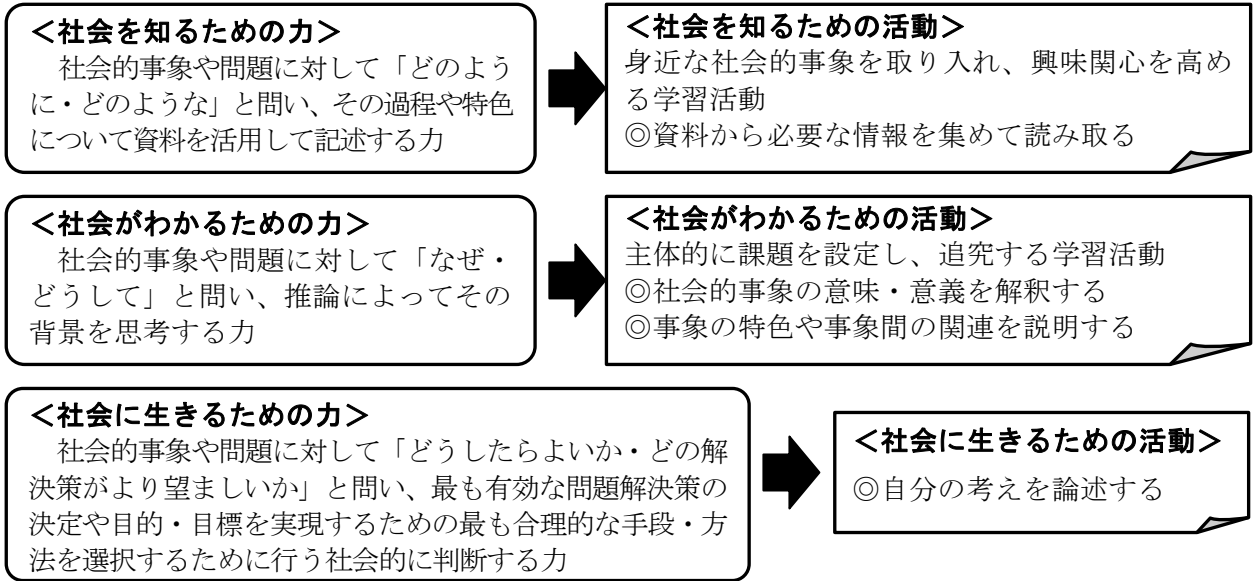
III 研究の内容

1 研究の仮説

生徒にとって身近な社会的事象を取り上げ、社会科的思考力・判断力・表現力の向上を図ることで、生徒たちの社会的な見方・考え方を育てることができるであろう。

2 研究への取り組み

(1) 中学校社会における思考力・判断力・表現力の育成について



(2) 社会的なものの見方・考え方について

- ①事実に基づいて ②公正に ③比較・関連・総合して
- ④自分なりに解釈・意味づけして ⑤事実や解釈の限界性を意識して
- ⑥複数の社会的な事実を一般化したり抽象化したりして
- ⑦社会的事象を多面的・多角的に ⑧時間の経緯や空間的な広がりの中で
- ⑨自分の生活や自分自身とのかかわりで



IV 実践例①

1 単元名 「わたしたちの生活と経済」

2 単元の目標

- ・身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。
- ・現代の生産の仕組みや働きを理解させ、社会における企業の役割と責任について考えさせる。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、個人や企業の経済活動について考えようとしている。	社会における企業の役割と責任、個人や企業の経済活動にかかわる様々な事象から課題を見だし、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	個人や企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、有効な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産などの仕組みや働き、企業の役割と責任について理解し、その知識を身に付けている。

4 指導計画と評価計画（9時間扱い）

関：社会的事象への関心・意欲・態度

思：社会的な思考・判断・表現

資：資料活用の技能

知：社会的事象についての知識・理解

段階	時間	学習活動・学習内容	評価規準	評価方法
つかむ・調べる	1 ・ 2 ・ 3	『学習課題設定』 ・学習課題追究への見通しをもつ。 「ああ SAY!こう SAY!みんなの声で、西武エリアを変えよう。」プロジェクト。 (西武園ゆうえんちを盛り上げるには、どうしたらよいのだろうか?)	関①② 思①	行動観察
		・西武園ゆうえんちのニーズは何か? 中吊り広告や杉山さんからのメッセージを紹介する	資①② 知①	企画書
		・企画書の作成の仕方 企画書とは何か、作成の注意事項、作成例の紹介		
		・資料の検討 アンケート結果、遊園地入場者数の推移 ・西武園ゆうえんち、プロジェクトHP検証	発言	
活性化案企画書作り(個人) ・条件①(西武園ゆうえんち杉山さんより) 絶叫系の乗り物に頼らない、新しい遊園地を提案してほしい。				
生かす	4	企画書(個人)発表(各自7分) ・個人で作成した企画書の内容を班内で発表する。 ・発表ワークシートの記入、採用順位の記入 ・質疑応答	関② 思②③ 資③ 知①②	行動観察 発表 企画書 ワークシート
調べる	5 ・ 6 ・ 7	活性化案企画書作り①②③(班) ・条件②(小澤より) 地理、歴史、公民の学習を通して習得した社会科の視点を生かし、新しい遊園地を提案すること。	関①② 思①	行動観察
		歴史、自然、農業、工業、商業、人口の推移、交通、通信、国際交流、政治、共生社会、地域の活性化、経済(消費者・生産者の視点)、社会貢献など	資①② 知①	発言
		・班内での話し合い ・コンピュータ室、インターネットによる検索 ・書籍の活用 ・発表用掲示物、資料の作成		
生かす	8	企画書(班)発表(各班5分) ・班で作成した企画書の内容をクラスで発表する。 ・発表ワークシートの記入、採用順位の記入 ・質疑応答	関② 思②③ 資③ 知①②	行動観察 発表 企画書 ワークシート
	9	・各班から出された活性化案をもとに、投票により、クラスで最も提案したい企画を決める。 ・活性化案企画書作り(個人)まとめ ・最終の提案用企画書を作成	関①② 思① 資③ 知③	行動観察 発言 企画書

5 本時の学習指導

(1)本時の目標

- ・「西武園ゆうえんち活性化案(企画書)」の作成を通して、身近な地域の経済活動から現実の経済に対して関心を持ち、経済上の諸課題を意欲的に追究させる。
- ・遊園地の活性化について、地理、歴史、公民の学習を通して習得した社会科の視点を生かし、多面的・多角的に考え、地域社会の形成者として判断する力を身に付けさせる。

(2)評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
①遊園地の活性化計画を通して、身近な経済活動について関心を持ち、進んで課題解決しようとしている。 ②自分たちの提案と比べながら、他のグループの発表を聞こうとしている。	①遊園地の活性化について多面的・多角的に考察している。 ②活性化案とその提案理由を、わかりやすく説明している。 ③友だちの意見と自分の考えを比較しながら、自分の考えが深められている。	①アンケートや統計資料などから、企業の経済活動に関する様々な資料を収集している。 ②有効な情報を適切に選択し、読み取っている。 ③集めた資料を図表などにまとめ、効果的に活用している。	①経済活動が社会生活と密接な関わりを持つことを理解している。 ②経済活動の基礎的内容を、具体的な事例を通して説明している。 ③身近な問題に目を向け、地域社会の担い手としての責任と役割を果たすことの重要性に気付いている。

(3)展開

過程	学習内容・活動	指導上の留意点・評価○	時間
導入	<p>「ああSAY!こうSAY!みんなの声で、西武園エリアを変えよう。」プロジェクト。 (西武園ゆうえんちを盛り上げるには、どうしたらよいのだろうか?)</p> <p>1.西武鉄道杉山・勝田さんを紹介 2.前時までの学習内容を確認する。 ・西武鉄道中吊り広告の掲示 ・西武グループ杉山さんからのメッセージ 「<u>西武園ゆうえんちをたくさんの人がくる魅力ある遊園地にするための活性化プランを提案してほしい</u>」 ・活性化プラン作成の条件確認①② 3.西武園ゆうえんち活性化案（企画書）発表手順の確認</p>	<p>○学習の準備ができているか。 (関心・意欲・態度)</p> 	6分
展開	<p>西武園ゆうえんちの活性化案を発表しよう。</p> <p>4.班で考えた活性化案を発表し合う。 (発表時間各班5分) ・各班はそれぞれの視点に基づいて班で考えた企画の発表をする。 ・各班のプランについて質問事項、意見や改善点について発表する。 5.西武鉄道杉山さんから感想を頂く。(3分)</p> 	<p>・メモしながら発表を聞かせる。 ・多様な考えや意見に気付かせる。 ・練り直した方がよい点については、その理由を述べさせる。 ○西武園ゆうえんち活性化案の発表や話し合いに意欲的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度) ○西武園ゆうえんちの長所を生かした具体的な活性化案を考えることができたか。(思考・判断) ○活性化案と提案理由をわかりやすく説明・発表できたか。(表現) ○資料を十分に生かしているか。(資料活用の技能)</p>	38分
まとめ	<p>6.学習の感想を書き、本時の振り返りを行う。 7.次時の学習内容を知らせる。</p> 	<p>・学習のまとめをさせる。 ・プリントの提出により生徒の考えを把握する。 ○学習内容を理解し、課題に対する自分なりの考えをまとめることができたか。(知識・理解)</p>	6分

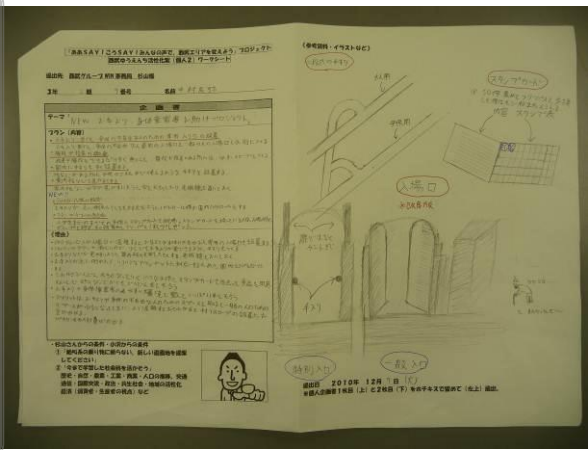
6 ルーブリックについて：「西武園ゆうえんち活性化案（個人企画書）」について

	A：十分満足できる状況	B：おおむね満足できる状況	C：改善が求められる状況
社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の書式が守られている（記述8割以上）。 企画書作成に意欲的に取り組み、積極的に学習に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の書式が守られている。 ※記述8割未満 積極的に学習参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の書式が守られていない。
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 遊園地の課題や問題を把握し、具体的な改善策を提案している。 メリット、デメリットが述べられ、説得力のある企画になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画書作成条件②をクリアしていない。 西武園ゆうえんちの活性化について、一応の提案がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画書作成条件①をクリアしていない。
資料活用 の技能	<ul style="list-style-type: none"> プラン内容を裏付けする適切な資料が添付されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料を分析し、一応の資料の添付がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の添付がなされていない。
社会的事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 課題学習を通して、現在西武園ゆうえんちが抱えている課題について、自分なりの主張かもてる。 	<ul style="list-style-type: none"> 西武園ゆうえんちが抱えている課題や問題について、大まかに説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 西武園ゆうえんちが抱えている課題や問題について捉えられていない。

【評価 A の企画書例】

- 企画書①「NEW. お年寄り. 身体障害者お助けプロジェクト」について（これからの遊園地の在り方）

中高年層・身体障害者の集客



- 高齢者・車椅子使用者専用入り口
- 階段や段差の撤廃（バリアフリー）
- サポートパトロール隊の結成
- 公民の視点：福祉について人にやさしい遊園地づくり
 - 地理的視点：遊園地の地形狭山丘陵に立地、坂や段差の克服

- 企画書②「鉄道・ファミリー遊園地」について（施設の改善・他の資産の活用）

遊園地の集客増を図る



- 鉄道ファンの増加に着目
- 鉄道イベントの開催・ミニ列車
- 遊園地までの交通強化・西武鉄道
- 公民の視点：経済効果についてニーズの把握、関係機関との連携
 - 地理的視点：交通網と人口鉄道の活用、立地や人口

実践例②

1 単元名：「身近な地域の調査」

2 ルーブリックを作成するに当たってのパフォーマンス課題

①指定した調査場所に関する特色や分かったことをまとめる。

②身近な地域の現在の特色と20年後の将来像

3 評価カードの作成

→パフォーマンス課題によって身に付けさせたい力、評価したい力を明確にする

※授業開始時に本時のねらいと、身に付けてほしい力について説明し、次時の授業で評価問題(テスト)を実施する。

平成22年度 所沢市立柳瀬中学校第1学年社会(地理的分野)評価カード		第2編 地域の規模に応じた調査	第1章 身近な地域の調査	()組 ()番 氏名()		
月日	評価項目	A評価	B評価	C評価	評価	感想
	①身近な地域の特色を指摘することができましたか。	小学校で学習したことを基に身近な地域の特色を5つ以上指摘することができた。	小学校で学習したことを基に身近な地域の特色を3つ〜4つ指摘することができた。	小学校で学習したことを踏まえず、指摘してしまっただけ。	A・B・C	
	②地形図の基本を身に付けることができましたか。	16方位、縮尺、土地の高さ、地形記号の総数に8割以上正解することができた。	16方位、縮尺、土地の高さ、地形記号の総数に5〜7割正解することができた。	16方位、縮尺、土地の高さ、地形記号の総数に4割以下しか正解できなかった。	A・B・C	
	③地形図から関心のある特色を見つけることができましたか。	地形図の縮み方を基に、身近な地域の特色を8つ以上指摘できた。	地形図の縮み方を基に、身近な地域の特色を5つ〜7つ指摘できた。	地形図の縮み方を基に、身近な地域の特色を4つ以下しか指摘できなかった。	A・B・C	
	④古い地形図と比較して仮説を立てることができましたか。	古い地形図と比較して5つ以上の仮説を指摘することができた。	古い地形図と比較して3つ〜4つの仮説を指摘することができた。	古い地形図と比較して2つ以下しか仮説を指摘することができなかった。	A・B・C	
	⑤グラフを説明することができましたか。	グラフの読み取り問題に4割以上正解することができた。	グラフの読み取り問題に3割正解することができた。	グラフの読み取り問題に2割以下しか正解することができなかった。	A・B・C	
	⑥統計資料からグラフを作ることができましたか。	統計資料を見て、柱グラフ・帯グラフ共に正確な色鉛筆を揃えて作成することができた。	統計資料を見て、柱グラフが帯グラフのうち、どちらかを正確な色鉛筆を揃えて作成することができた。	グラフを作成することができなかった。	A・B・C	
	⑦身近な地域の調査結果を自主的に取りまとめましたか。	調査・調査結果からさまざまな特徴を意図的に得ることができた。	調査・調査結果からさまざまな特徴を得ることができた。	調査・調査結果から特徴を意図的に得ることができなかった。	A・B・C	
	⑧身近な地域の調査結果を自主的に取りまとめましたか。	調査・調査結果からさまざまな特徴を意図的に得ることができた。	調査・調査結果からさまざまな特徴を得ることができた。	調査・調査結果から特徴を意図的に得ることができなかった。	A・B・C	
	⑨2項目の調査結果から身近な地域の課題を見出すことができましたか。	調査・調査結果から身近な地域に関するさまざまな特色や事柄を5つ以上見つけることができた。	調査・調査結果から身近な地域に関するさまざまな特色や事柄を3つ〜4つ見つけることができた。	調査・調査結果から身近な地域に関するさまざまな特色や事柄を2つ以下しか見つけることができなかった。	A・B・C	
	⑩2項目の調査結果や今までの学習から、身近な地域の課題をまとめることができましたか。	調査や統計などから根拠と特徴を、地図読みやグラフ化し作り、調査結果をまとめることができた。	調査や統計などから根拠と特徴を、地図読みやグラフ化し作り、調査結果をまとめることができた。	調査や統計などから根拠と特徴を、地図読みやグラフ化し作らずに、調査結果をまとめた。	A・B・C	
	⑪他の調査の結果から身近な地域について学ぶことができましたか。	他の調査の結果から身近な地域について学ぶことができた。	他の調査の結果から身近な地域について学ぶことができた。	他の調査の結果から身近な地域について学ぶことができなかった。	A・B・C	
	⑫20年後の身近な地域の将来像を想像することができましたか。	今までの学習を活用して、20年後の身近な地域の将来像を課題も地図しつつ説明することができた。	今までの学習を活用して、20年後の身近な地域の将来像を説明することができた。	20年後の身近な地域の将来像を説明することができなかった。	A・B・C	

[注意] ⑦〜⑩は「総合的な学習の時間」に関連して行う予定です。この評価カードも使用しますので大切にしてください。

所沢市立柳瀬中学校

4 「身近な地域の調査」におけるパフォーマンス課題とA評価の例(評価はA〜Cの3段階)

課題

- ①柳瀬民俗資料館にはどのような資料がありましたか。
- ②資料館の資料から分かった身近な地域の特色は何ですか。

A評価の解答例

昔の服や書物、食器、道具などが展示されていた。道具のつくりなどは今と異なり、木などから作ったものがほとんどだった。「小作帳」というものが展示してあった。昔の人は生活の出来事を忘れないように、「小作帳」に書いて記録していた。

当時の柳瀬村の人々にとって米は大変貴重(米は陸稲のみ)で、地域で栽培された麦を混ぜた「麦飯」というものを主食にしていた。

質問①に対して明確な解答がなされている。

→昔の服、書物、食器、道具等

質問②に対して資料や景観から地域の特色を指摘している。

→「米に麦を混ぜた麦飯…」から、当時の柳瀬村では、麦が中心に栽培され、水利が悪かったため、陸稲がわずかに栽培されていた。

5 「身近な地域の調査」のルーブリック

	A：十分満足できる状況	B：おおむね満足できる状況	C：改善が求められる状況
社会的事象への関心・意欲・態度			
社会的な思考・判断・表現	身近な地域の特色を地形・人口・交通・産業・文化など複数の事柄を関連付けて説明している。	地域の特色を明らかにするためにあたって、地形・人口・交通・産業・文化などの視点から1つしか取り上げられていない。	身近な地域の特色を明らかにするためにあたって、感想や思いつきで説明している。地形・人口・交通・産業・文化などの視点がない。
資料活用の技能	身近な地域の特色について最適な資料・グラフを効果的に活用している。全体的に解答の文章が分かりやすい。	身近な地域の特色について必要な資料・グラフが使われている。	身近な地域の特色を明らかにするための資料・グラフ等が使用されていない。
社会的事象についての知識・理解	身近な地域の特色を正しく理解し、具体的に書くことができている。	身近な地域の特色を具体的に標記することができている。	身近な地域の特色の内容に誤りがある。

V まとめと課題

1 地理的分野における研究について —「身近な地域の調査」から—

今回の地理的分野における研究は「身近な地域の調査」の単元が対象となった。『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月）では、「……野外での観察や調査の実施が困難な場合、地図、画像、統計などを基に地理的事象を読み取り、調べ、追究する学習を行うことを……」とあるように「学校所在地の事情」から調査活動の実施が困難な場合は代替措置がとられている。そのためこの単元では例年、地形図の読図などで済ませていた。本研究では生徒や地域の実態を生かし、生徒一人一人に自分たちが住んでいる地域の調査を実施し、次の様な成果と課題が得られた。

<成果と課題①>：授業時数の確保について

→総合的な学習の時間とタイアップすることにより活動時間を生み出せる。

学年単位で授業に取り組むことにより、時数が確保できる。

生徒一人一人の問いに対してじっくりと課題解決に取り組むことができる。

<成果と課題②>：パフォーマンス課題に取り組ませるための教師の意図的系統的な授業づくり

→じっくり取り組むことによって得られたデータやルーブリックの妥当性が高められた。

2 公民的分野における研究について —「わたしたちの生活と経済」から—

事前の西武ゆうえんちに関するアンケートでは、25回以上も来園したことがある生徒がいるなど、生徒たちが幼い頃から慣れ親しんでいる企業の一つである。身近な地域にある企業の活動の学習を通して、生徒たちは経済活動や現実の経済に対し関心をもち、経済上の諸課題を意欲的に追求できるのではないかと、ひいては社会的な見方・考え方を育てることができるのではないかと考えた。

今回の授業の実施前後において、以下のアンケートを実施した。社会科で求められている学力を、生徒たちがどのように身に付けられたか、アンケートの結果から考察したい。

アンケート質問内容

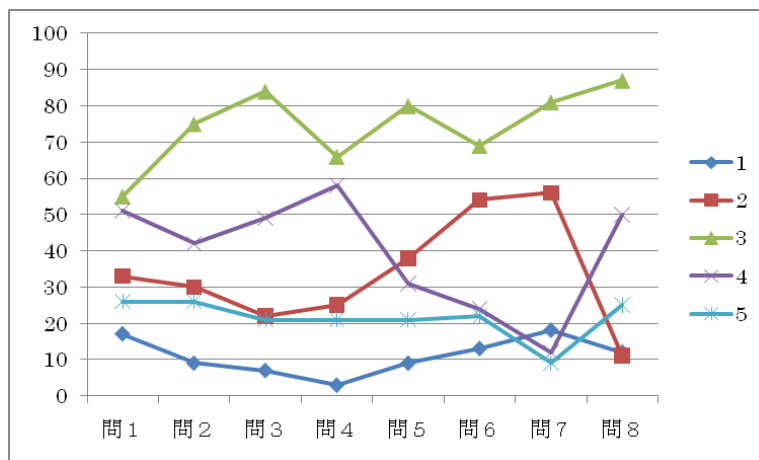
	内 容	観 点
問 1	社会は好きですか。	関心・意欲
問 2	私たちの生活が経済活動と密接なかかわりを持っていることに気付き、経済に興味を持つことができましたか。	
問 3	班・全体の話し合いで、いろいろな意見から学ぶことができましたか。また、友達の意見をもとに、自分の考えを深めることができましたか。	思考・判断
問 4	たくさんある意見・選択肢の中から、自分の判断で一つの意見を選ぶことができますか。	
問 5	ワークシートなどに文章をまとめたり、自分の考えを表現することができますか。	表現
問 6	自分の意見や考えを積極的に発表できますか。	
問 7	社会のしくみや出来事について、説明することができますか。	知識・理解
問 8	社会のしくみや出来事について、理解ができるようになりましたか。	

アンケート回答

1 全然思わない	2 あまり思わない	3 まあまあ思う	4 思う	5 強く思う
----------	-----------	----------	------	--------

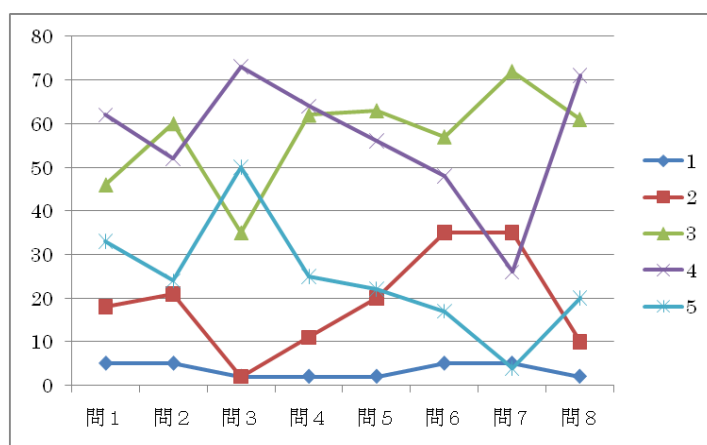
授業実践前のアンケート結果 (人数)

	1	2	3	4	5	平均
問1	17	33	55	51	26	3.20
問2	9	30	75	42	26	3.25
問3	7	22	84	49	21	3.29
問4	3	25	66	58	21	3.39
問5	9	38	80	31	21	3.09
問6	13	54	69	24	22	2.93
問7	18	56	81	12	9	2.64
問8	12	11	87	50	25	3.35



授業実践後のアンケート結果 (人数)

	1	2	3	4	5	平均
問1	5	18	46	62	33	3.61(+0.41)
問2	5	21	60	52	24	3.42(+0.17)
問3	2	2	35	73	50	4.03(+0.74)
問4	2	11	62	64	25	3.46(+0.07)
問5	2	20	63	56	22	3.46(+0.37)
問6	5	35	57	48	17	3.22(+0.29)
問7	5	35	72	26	4	2.92(+0.28)
問8	2	10	61	71	20	3.42(+0.07)



※無回答あり

【問1・2 社会の学習は好きか／経済活動に興味を持てたか】

この設問に対して、授業実践の前後を比較して+0.41ポイント、+0.17ポイントの伸びが見られた。これは、生徒の身近な「西武園ゆうえんち」を取り上げたこと、自らのアイデアで活性化させるというめあてが明確に示されており、西武鉄道の杉山さんに提案するという目的意識も高められたからであると考えられる。



【問3・4 友達の見意をもとに考えを深められたか／自分の判断で選択できたか】

この設問に対して、+0.74ポイント、+0.07ポイントの伸びが見られた。「西武園ゆうえんち」の活性化案（個人企画書）においては、企画書完成後、



各グループ（6人班）の中で一人ずつ企画書の発表を行っている。さまざまな視点から企画された班員の見意を聞いたり、一人7分間の発表をしたりする中で、自分のプランを整理して提案し、そのプランに対する質問や見意などを交流する作業を通して、自分自身の考えを深めることができたのではないかとと思われる。

【問5・6 自分の考えを表現できたか／自分の見意や考えを積極的に発表できたか】

この設問に対して、+0.37ポイント、+0.29ポイントの伸びが見られた。企画書の作成や、プレゼンテーションのための資料の作成、限られた時間の中で、自分たちのプランをどのように伝えていけばいいの、実際に発表の機会を学習の中に多く設けたことで、表現力に対する向上が図られたのではないかと考える。

【問7・8 社会のしくみや出来事について、説明できたか／理解できたか】

この設問に対して、+0.28ポイント、+0.07ポイントの伸びが見られた。授業の中で、消費者の視点からだけでなく、企業側の立場から「西武園ゆうえんち」の活性化案を考えることで、個人と企業の関係、また地域や社会との関係を考えることができるようになったのではないかと考える。



以上のことから、本研究を通して次の様な力が生徒に身に付いたと考えられる。

- ①生徒にとって身近な社会的な事象を取り上げるにより、意欲的な調査活動、話し合い活動を行うことができた。
- ②目的意識、相手意識を明確にすることで、「何を」「どう考え」「どのように表現すればよいか」「そのためにどのような資料を集めればよいか」等を生徒一人ひとりが自覚して取り組むことができた。
- ③調査やプレゼンテーションに取り組む中で、既習事項を生かし、様々な視点から考えることができた。
- ④ルーブリックを明確に示すことで、評価の妥当性や客観性を高めることができた。

生徒は、考え表現するための場を的確に準備することにより、教師の予想をはるかに上回る学習活動を展開することができた。社会的な見方考え方を高めるためには、生徒も教師も夢になれる教材開発や授業づくりが必要不可欠である。本研究を契機に、よりよい授業を目指して、日々

